

令和6年度 自己評価報告書

令和7年3月
岐阜県立多治見看護専門学校

1 本校の概要・・・資料1～3

本校は、以下の教育理念の下、学生教育を実施している。

「生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。」

2 令和6年度 組織目標及び実績・・・資料4・5・18～19・33

(1) 教育環境の整備

○安全安心な学習環境の整備

- ・各種アンケート調査を計画に沿って実施し、学生の意見に対して教務会等で共有し、学生の要望についてはフィードバックを行った。
- ・ストレスチェックを年3回実施した。2月のストレスチェックについては外部のストレスチェックのシステムを導入し、即時的フィードバックを学生が確認できるようにした。結果についてはスクールカウンセラーと連携し、カウンセリングや個別の面談に繋げた。また、担任・副担任とスクールカウンセラーの連携も密にはかり個に応じた対応を心掛けた。
- ・ハラスメントについては「ハラスメント意識調査」を実施し、学生の認識を把握した。また、ガイドラインに沿ってハラスメントに対する当校の考え方を学生に説明した。
- ・保護者に向けて授業参観の案内を行い、9名の参加があった。

(2) 県内の優秀な学生の確保

- ・直接高校に訪問した件数 10校
- ・電話で、自校をPRした件数 17校
- ・入学案内を送付した件数 54校
- ・進学相談会 16会場へ参加
- ・母校訪問 7校直接訪問 4校後日郵送
- ・対面式オープンキャンパス 65名の参加

(3) 学校運営評価会議での意見の活用

- ・令和6年7月30日第1回学校運営評価会議を開催、外部委員5名に評価をいただいた。
- ・令和6年9月に第2回学校運営評価会議を書面で開催し、結果をホームページで公表した。

(4) 予算執行・学生生活支援(総務課)

- ・限られた予算の中で、ノートパソコン2台(27万)、ワイヤレスアンプ1台 マイク1本(6万)、導尿浣腸(9万)、洗髪器3台(5万)を購入した。
- ・日本学生支援機構奨学金11名の事務手続き、各種証明書等の発行事務を迅速かつ適正に実施した。

(5) 新カリキュラムの適正な運用

- ・新カリキュラム評価委員会を4回実施した。
- ・今年度新しく「生涯学習入門Ⅱ」「臨床薬理」「地域・在宅看護各論Ⅴ」を開講。「地域・在宅看護各論Ⅴ」は衛生専門学校と合同授業を行った。

(6) 教員の教育活動の充実、看護実践能力の維持・向上

- ・小児看護学において授業研究に取り組み、授業案作成から実施まで一連の流れを研究し、評価をおこなった。地域・在宅看護論では、多職種連携教育のため、他校とも授業構築を行い、リモートでつなぎ合同授業を行った。
- ・学生指導において、実習指導の好事例、困難事例について勉強会を2回行った。
- ・実務研修(短期研修)を2名の教員が行った。
- ・学会・研修会に参加し、伝達講習を一人1回実施した。

3 学校評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校経営

資料4～5・11～12

評 価 項 目	評価点
・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。 ・評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ問題解決に当たっているか。	4. 6 (R5年度4.6)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・組織目標は職員会議で周知し、全職員で連携しながら問題解決にあたることができた。
- ・学校評価を9月と2月の2回実施した。評価結果は職員会議で周知し、中間評価結果は後期の学校運営に繋げ、2月の評価結果を次年度の学校運営目標に繋げた。また学生の学校評価、外部委員による学校関係者評価委員会を実施し、職員会議で周知するとともに、その結果を学校運営計画に繋げた。また必要時はミーティングや各種委員会で情報共有をして問題解決に努めている。
- ・学校評価結果はホームページで公表した。

2) 学科運営

資料13～15・22・37

評 価 項 目	評価点
・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画(シラバス)が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員(実習指導教員)の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント・アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。	4. 3 (R5年度4.2)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・卒業生は評価項目3.3～3.5で評価し、ディプロマポリシー到達について概ね能力が身についたと感じていた。令和6年度は卒業年次生に8月と3月にカリキュラム評価を実施した。8月の結果より3月の結果が高く卒業時に身につけてほしい能力はより成長していたことが明らかとなった。これは、臨床で判断しながら実践することを繰り返し、自らが成長できていると実感している結果であると考え。
- ・授業内容や方法については科目終了後、学生による授業評価を実施。また、領域担当者が授業を振り返り総括を行い、次年度の授業内容や指導方法の改善につなげている。

- ・アンケート結果から学生からの要望も高く、効果的な授業運営のため、2 か月前には時間割を配布することができた。先々の授業進度が理解できることで学習支援につながっている。
- ・臨床実習においては指導者と担当教員が実習開始前に実習内容などについて細かな調整を行い、双方の指導を確認し合っている。また、臨床連絡会議では、がやがや会議を開催し、最近の学生の傾向や指導上の留意点などを意見交換している。臨床と連携を密にすることで、学生個々に応じた指導につなげることができた。
- ・実習時のインシデントについては3月に集計し要因・分析を行っている。インシデントの要因の多くは失念、判断不足であった。

3) 入学・卒業対策

資料 18～23

評 価 項 目	評価点
・ より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・ 国家試験の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・ 質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・ 卒業生の支援を行っているか。 ・ 卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。	4. 3 (R4 年度 4.1)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・進路ガイダンスは16会場に参加、母校訪問は直接訪問及び郵送を合わせ、11校に実施した。母校訪問では卒業生たちが当校の学校生活の実際を伝えることで効果的なアピールとなった。
- ・国家試験の指導体制は担当制をとっており、個に応じた手厚い指導を行っている。令和6年度においても合格率100%が維持できた。
- ・卒業生に対しては8月に卒業生交流会を実施、9名の参加があった。交流できたことで、今後のモチベーションにつながるといった意見があり、概ね本事業の目的が達成できた。
- ・令和6年度は県内就業率63%と昨年と比較し、低迷した。県外の入学者による影響も考えられた。引き続き、県内の看護師養成という学校の使命を学生に伝えていく。

4) 学生生活への支援

資料 24～31

評 価 項 目	評価点
・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。	3. 8 (R4 年度 3.8)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・進学・就職支援については模擬面接の実施やエントリーシートの記載方法など、演習を取り入れ具体的、体験的に支援をしている。また、進学先や就職先の情報提供についても陸館入口に配架し、学生が手に取りやすいように配慮している。
- ・学業継続支援体制の一環として奨学金については適時、情報提供を行っている。令和6年度から始まった岐阜県看護学生修学資金貸付制度の案内を行ったが、希望者はなかった。
- ・健康状態については日々、Logo フォームを用いて確認し、体調不良者については状況、対応について確認している。ストレスチェックを年3回実施。結果についてはスクールカウンセラーと連携し、学生の面談、カウンセリングなど実施した。自らカウンセリングを希望する学生もあり、手厚く精神的支援を行った。
- ・意見箱への投書は2件と減少した。

5) 教職員の育成

資料 32～36

評 価 項 目	評価点
・ 学生の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・ 学会又は研修会に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか。 ・ 教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・ 教員の授業を他の教員が参観・講評できる体制を整えているか。 ・ 教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。	4. 0 (R4 年度 3.9)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ 4月にゲートキーパー研修、12月にハラスメント防止に関する研修を県立3看護専門学校をリモートでつなぎ実施した。また、実習指導において好事例、困難事例について学習会を実施し、自身の教育活動に活かした。
- ・ 学会や研修会に一人1回以上参加し、学びの成果を教務会等の機会において実施した。教員間での学び合いにより刺激となった。
- ・ 実務研修（短期）を2名実施した。臨床での実務研修を自身の知識の更新や現場の実際の看護実践を教育に活かすことができた。
- ・ 授業研究を2グループに分け実施。授業計画から授業案の作成、授業実施、その後のリフレクションをすべて複数人で関わりより良い教育方法を見出すよう努力した。引き続き、プロジェクトチームとして研鑽したい。

6) 管理運営・財政

資料 12・17・24・37～39・41

評 価 項 目	評価点
・ 予算計画・年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・ 学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・ 災害などの非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・ 学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	4. 4 (R4 年度 4.3)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ 年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。
- ・ 学校が保有する個人情報については、「岐阜県情報セキュリティ対策基準」に従い管理している。
- ・ 個人情報保護は、毎回の実習開始時に学生へ繰り返しの指導を行うとともに、実習の記録やメモ帳の管理については、詳細なルールを決め、それに従い管理している。現在問題となっているソーシャルメディア利用の注意点については、学校生活案内に明記し、年度初めのガイダンス、ホームルーム、各実習前のオリエンテーションなど、機会あるごとに指導を行っている。
- ・ 災害の備蓄品に関しては学生、教員ともに各自配備している。防犯・交通安全意識の向上については職員会議の機会をとらえて職場研修として各自自分事として意識の向上に努めた。
- ・ 学生生活実態調査を12月に実施し、学校の設備や備品の更新を望む声が多く上がった。引き続き、計画的に回収ができるよう予算要求を行っていく。

7) 施設設備

資料 41～42

評 価 項 目	評価点
・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。	3. 5 (R4 年度 3. 4)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ノートパソコン2台(27万)、ワイヤレスアンプ1台 マイク1本(6万)購入し、授業を行う上での教室環境が整った。また、温室効果ガス排出削減、及び電気代の節約を目的に、全学年の教室の電気をLED化することができた。
- ・導尿浣腸(9万)、洗髪器3台(5万)を購入し、効果的な技術演習を行えるよう環境を整備した。
- ・学生の多様な要望に合わせ、図書室の自習スペースを他者に干渉されないスペースとしても活用できるようついたてを配備し、休養スペースとしても活用できるよう多目的に利用できるよう学生に周知した。
- ・令和6年度の新刊の購入は19タイトル、35冊であった。若者の書籍離れが叫ばれるなか、図書室の新刊本スペースにカラフルなポップを作成するなど、学生の目を引くようなレイアウトを工夫した。

8) 広報・社会貢献、地域活動

資料 43～44

評 価 項 目	評価点
・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	3. 6 (R4 年度 3. 0)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ホームページについては、オープンキャンパスや募集要項を掲載した。また、ホームページの形式を変更し、トップページの掲載一覧から各カテゴリーの情報へリンクできるようにし、より情報検索を簡便かつ見やすくした。
- ・地域で生活していらっしゃる多様な価値観を持つ方々との交流を企画実施した。学生も成長の機会となり、地域の方々にとっても当校を知っていただく機会となった。
- ・多治見市内の8校の中学校に向けて職業講話の出前授業を案内し、南ヶ丘中学校より講話の依頼があった。本校の認知を高める意義だけでなく、看護職に対する認知を地域に向けて広める機会となった。

4 総合的な評価

本年度に定めた組織目標は、本報告書に記載したとおり概ね実施できており、目標達成できていると評価する。また、評価項目の達成及び取り組み状況は、8カテゴリー中、6カテゴリーは評点がアップした。また平均評点も0.2点アップしたことから、適切に実施していると評価する。

— 以 上 —